

マツゲン連覇 史上5チーム目



降し、2大会連続7回
目の優勝を果たした。
マツゲン箕島は10月28
日に京セラドーム大阪
で開幕する日本選手権
の出場権を得た。日本
選手権の出場は2大会
連続8回目。

全日本クラブ野球選

▽決勝
マツゲン箕島
00011100025
00001010013

大和高田クラブ

(一) 松村、近藤、中田、坂
本、奥田、湯浅(大)、西、松
林、楠本、深尾
(マツゲン箕島は2大会連続
7回目)

社会人野球の第49回
全日本クラブ野球選手
権大会(毎日新聞社、
日本野球連盟主催)は
16日、愛媛・坊っちゃん
スタジアムで決勝が
あり、マツゲン箕島(和
歌山)が大和高田クラ
ブ(奈良)を5-3で



「マツゲン箕島―大和高田クラブ」優勝し喜ぶ
マツゲン箕島の選手たち(中川祐一撮影)

仕事仲間に恩返し

外角低めの変化球に
食らいついた。3-2
の九回2死一、三塁、
マツゲン箕島の5番・
竹中夢翔がはじ返し
た打球は中前へ。三塁
走者を迎え入れ、竹中
は両手を高々と突き上
げた。

「意識はセンター返
し。体を開かないこと
だけ」と竹中。不調で
打順を下げたが、本来
は4番を担う好打者
だ。腕の振りが鋭い大
和高田クラブの左腕・
松林勇志に対し、直球
との面くらみではな
く、割り切った変化球
に重きを置いたことが
奏功した。チームは3
-0からじわじわと追
い上げられ、攻撃でも
五回途中から救援した
松林に抑えられていた

大会ぶりだった。
マツゲン箕島は12安
打を放って競り勝っ
た。三回に杉浦玲吏の
犠飛で先制し、四、五
回に1点ずつ加えた。
1点リードの九回は竹
中夢翔、松本佳高の連
続適時打で2点を奪っ
て突き放した。先発の
松村亮汰は5回1失

点。小刻みな継投で逃
げ切った。大和高田ク
ラブは中盤から追い上
げ、九回は押し出し死
球で2点差に迫った
が、なお2死満塁であ
と一本が出なかった。
表彰選手は次の通
り。
最高殊勲選手賞―松
村亮汰投手(マツゲン
箕島)▽敢闘賞―西浦
太智内野手(大和高田
クラブ)▽首位打者賞
―西浦太智内野手(12
打数6安打、打率5割)

だけに、優勝を大きく
たぐり寄せる適時打だ
った。
恩返しの一振りだ。

チームにはマネジャー
兼任を含めて16人の投
手がいて、実戦形式の
打撃練習に次々と登板
する。最速150キロ超
の投手も複数擁し、打
者たちは日ごろから対
心力を磨いてきた。生
きた球を毎日のように
見られるのはすごくプ
ラス」と竹中は感謝す
る。チームは計12安打。
うち10本が単打だが、
難しい球でもきっちり
と捉える技術が光っ
た。

チームは和歌山県な
どで展開するスパー
「松源」の支援を受け、
選手は主に店舗で業務
をこなす。野球が好き

で、働ながら硬式野
球を継続したいと門を
たたいた若者ばかり
だ。

滋賀・八幡商、専大
出身の24歳の竹中もそ
の一人。総菜を担当し、
普段は店舗内の調理場
で弁当のおかずを作っ
ている。「仕事も野球
も全力。両方を頑張る
ことで職場の人にも応援
してくれるはず。野球
で店舗を空けているの
で、結果で恩返しした
かった」と話した。

「野球王国」として
名高い愛媛県で初開催
の大会。仕事と野球の
「二刀流」に取り組む
選手たちが鍛錬の成果
を披露し、クラブ野球
の新たな歴史に「連覇」
で彩りを添えた。

【石川裕士】